

2022年1月発行



CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 64

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

2022年も何卒宜しく お願い致します

皆様、改めまして新年あけましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願い致します。

先月にはフィリピンで発生した大型台風や、今月にはトンガにて大規模な火山噴火や津波が起きました。日本においてもラニーニャ現象による強い寒波が各地に被害をもたらしました。改めて、現在は「5人に1人が被災する時代」と言われておりますが、災害への備え及び迅速な対応を更に強化すべく一同気を引き締めて参ります。

人道支援に関するニュースサイトのThe New Humanitarianが2022年に注目すべき事象として以下10の事項を挙げています：

1. 新型コロナウイルス感染拡大による貧困と不平等の悪化
2. ソーシャルメディアのヘイト問題
3. アフガニスタン、ハイチ、ミャンマー：政治的混乱と人道的課題
4. 西洋vs.その他：亡命を阻む国境の危機
5. 未曾有の飢餓
6. 気候変動による隠れた健康リスク
7. 武装勢力の台頭とその人道的コスト
8. エチオピア紛争：支援に対する障害
9. イエメン紛争：マリブの動向
10. 中南米：政治不安と新型コロナウイルスの影響の連鎖

OUR SNS IS ACTIVE!

FACEBOOK

TWITTER

INSTAGRAMでも

情報発信しています！

最後のページを
ご覧ください



写真

昨年12月に発生したフィリピンの大型台風の影響を受けた地域

(写真は現地パートナー団体より提供)

我々人道支援団体はこれらの危機に立ち向かう為に存在し、2022年は事業においても組織においても新たな動きを進めて参ります。その詳細や進捗は適時このニュースレター等でもお伝えして参ります。

2022年が、皆様にとって安全で幸せな年となりますよう心より祈念しております。そして、より安全・安心な社会づくりに向け、皆様と共に今年も歩いていけたら、大変幸甚に存じます。

(文：事務局長 小美野 剛)

VECとの協働による 防災ワークショップ

私がVilla Education Center(VEC)を知ったのは、しんじゅく多文化共生プラザが主催する多文化共生連絡会に初めて参加した9月初旬のことでした。CWSではその前年から新宿区を対象地域として、支援を必要とする外国人をターゲットにした新たな活動を開始していました。コロナ禍をきっかけに足元の地域を見つめ始めたところであり、全く地域にツテがなく、地域で外国人を支援する団体とのネットワークを求めていたところでした。そんな中、近くに、しかも滞日ミャンマー人を支援する団体があることを知り、早速、事務局の吉村さんに連絡し、面会を申し込みました。

VECはミャンマーからの難民であるチョウチョウソーさんとその仲間たちが滞日ミャンマー人を支援するために2014年に活動を始め、2020年に任意団体になったばかりです。高田馬場駅近くの副代表理事であるチョウチョウソーさんが経営するレストラン・ルビーとその近くの一軒家がVECの拠点になっています。

"ミャンマー出身者だけでなく、日本人参加者にとっても・・・初めて聞く話ばかりであることが分かりました。"

VECでは、ミャンマー人と日本人が様々なトピックについて参加型で学び合うという日本語活動が毎週日曜日の午前中に行われています。ちょうどその頃、私は他団体から紹介を受けて出会ったミャンマー人で難民申請中の仮放免者の方の支援を始めたところで、彼に同行して、その日本語活動に参加しました。VECでは、参加者が固定されておらず、毎週、様々な場所から学生や社会人が集まり、日本語教育を専門とする東京女子大学の松尾先生と大学院生のファシリテーションによる学び合いが行われています。

そこで、「防災をテーマにしたワークショップをやりませんか？」と私から提案させていただき、先月(12/12)、VECとの協働による初めての防災ワークショップが実現しました。ワークショップ当日は、特に参加者が多く、日本人・ミャンマー人・中国人・ベトナム人と総勢19名が集まり、自助・公助・共助に関する気づきのアクティビティやディスカッションを行いました。



写真
VECで開催した
防災ワークショップの様子

事前に想定はしていましたが、ミャンマー出身者だけでなく、日本人参加者にとっても「避難所」と「避難場所」の違いや自分達が居住しない土地で災害に遭えば「帰宅困難者」となり、避難所ではなく、「一時滞在施設」に避難すること、避難所は自治会によって運営されていることなど、初めて聞く話ばかりであることが分かりました。中でも印象的だったのは、避難所に入る際に記入する避難所登録カードを書くというアクティビティで、カードが全て日本語で書かれてあり、属する町会名の記入欄のところで、全参加者がつまづいたことです。「町会って何ですか？」と尋ねる外国人参加者に説明する日本人参加者自身も町会に入っていないことに気づき、災害が発生した時には町会単位で被災者自身が避難所を運営しなければならないという現実を知ることになりました。

フィリピン・台風ライ被災者支援を開始しました

2021年12月16日から17日にかけてフィリピン中部を襲った台風ライは、各地に甚大な被害をもたらしました。台風は24時間以内にカテゴリー1から5へ変化し、十分な安全確保が出来ぬまま上陸を迎えました。カテゴリー5の台風というのは「スーパー台風」とも呼ばれ、2013年にフィリピンを襲い8千人を超える死者・行方不明者を出した台風ハイエン（平成25年台風30号）と同じカテゴリーになります。

「（首都直下地震について）全くピンと来なかった参加者が・・・災害がぐっと現実味を帯びて近づいてきたような気がしたことか
と思います。」

「30年以内に首都直下地震が発生する確率は70%」と言われても、全くピンと来なかった参加者が、唯一多言語化されている避難所ルールや日本語で記入を求められる避難所登録カードを目の前に見せられて、災害がぐっと現実味を帯びて近づいてきたような気がしたことかと思います。最後のふり返りで「日本語学校で避難訓練に参加した経験はあるけど、防災の知識がないことを知って良かった」という感想も聞かれました。今のところ、行政による外国人対応とは多言語対応にとどまりがちです。今後は外国人と日本人による共助を目指した防災ワークショップに取り組んでいく必要性を感じています。

（文：ディレクター 牧 由希子）



写真
被災地の様子
（写真は現地パートナー団体より提供）

フィリピン政府機関の発表では11地域、38州で合計1,241,954世帯に被害を及ぼしたと報告されています。この災害によって50万人あまりの避難民が発生し、CWS Japanが支援をしている南レイテ州でも、合計84,938世帯が被災し、71,158棟の家屋が損壊したとの報告があります。しかし、現地のインフラの被害は大きく、正確な情報がまだ把握しきれません。

気候変動適応に関する新たなグローバルイニシアチブを始めました

"必要な支援を届け、この度の教訓を更なる防災力向上へ活かしていけるよう、活動して参ります。"

CWS Japanは以前からニュースレター等でお伝えしている防災イノベーション事業をフィリピンで行っています。この度の被災地域でも活動しており、現地パートナー団体と支援を行います。多くの避難者は現在も北東モンスーンやシアラインによる大雨の影響を受けており、フィリピン気象庁によると、今後2~3ヶ月はこの状態が続く見込みであると言われています。住居支援・心理社会的支援、安全な飲み水等に加え、防災力向上支援も視野に活動しています。必要な支援を届け、この度の教訓を更なる防災力向上へ活かしていけるよう、活動して参ります。皆様のご理解・ご支援を心よりお願いいたします。

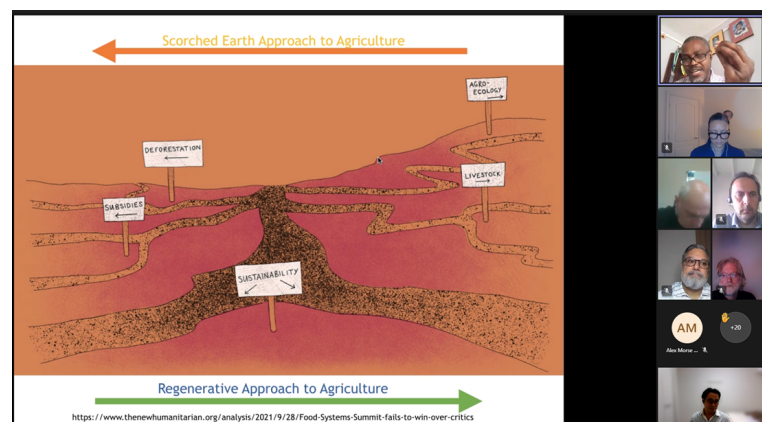
(文:プログラム・マネージャー 五十嵐豪)



写真
被災地の様子

(写真は現地パートナー団体より提供)

CWSは本部の米国に始まり、中南米、アフリカ、東ヨーロッパ、そしてアジアで様々な人道・開発・移住定住支援を行っています。歴史的に、人道・開発事業を担う部署と移民・定住事業を担う部署は分かれていましたが、昨年にはそれらを統合し、総力を持って現在の危機に立ち向かうという方向性が発表されました。また、CWSが特に力を入れていく分野（水衛生・保健医療・飢餓・気候変動・防災減災・人道支援・移住・人道保護など）に関して全体的な事業の質を上げる為にテクニカル・ユニットという新部署を立ち上げ、CWS Japanも特に防災や人道支援に関して関わっていく事になりました。



写真

議論（オンライン）の様子

そのキックオフとして、気候変動と移住に関するワーキンググループを立ち上げ、気候変動の影響を受ける中より持続的可能な農業とは何か、何が課題なのか、CWSは今後何に目して事業を展開すべきなのか議論を進めています。

"サイエンスと現場を繋げ、より多くの人々が変化する気候へ適用し、生活の営みを崩さずにいられるよう、私達にできる事はまだまだあると考えています。"

例えば、土の状態に着目し、化学肥料を最小限に抑えながら、周りの環境と共生した農業が望ましいわけですが、貧しい小規模農家にとって今までのやり方を抜本的に変えるという事は大きな生活上のリスクを伴います。そのリスクを軽減できるような仕組みを考え事業化する事で、より環境に優しく、土壌改善に繋がります。サイエンスと現場を繋げ、より多くの人々が変化する気候へ適用し、生活の営みを崩さずにいられるよう、私達にできる事はまだまだあると考えています。冒頭でもご紹介した様々な「危機」に立ちむかう為、CWSはこれからも世界中の知見を繋げ、事業化していきます。

日本が歴史的に学び実践してきた防災・減災も、世界中に広めていきたいと考えています。進捗はまた皆様にお伝えして参ります。

(文：事務局長 小美野 剛)

過去のニュースレターやインタビュー記事は下記よりアクセス頂けます。

過去のニュースレターは[こちら](#)



インタビュー記事は[こちら](#)



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースボート...
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



堀内 葵様 | 特定非営利活動法人 国際協力...
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...
6月 06, 2021 ■ パートナーの声



中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...
6月 06, 2021 ■ パートナーの声

ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは2月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス:
public@cwsjapan.jp
電話:
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)